第1・2学年（複式学級）学級活動指導案

平成27年6月15日（月）5校時

授業者　教諭　前泊睦美

1学年（男子1名女子2名計3名）

2学年（男子1名女子1名計2名）

**１　題材**「きちんとあやまる」　学級活動（２）　ウ　望ましい人間関係の形成

**２　題材について**

（１）児童の実態

　本学級は、児童数5名のうち新入生3名、転入生1名と4名がこれまでと違った新しい生活を送っている。児童は、友だちや学校生活の変化に慣れない事も多いが、明るく活発に、休み時間や放課後も学級の仲間と遊ぶ姿が見られる。また、小規模校であるため学校行事や昼休みは、上級生と活動する機会も多く、楽しく過ごしている。一方、友だちや上級生に対して、間違った行動をしてしまった時、素直に謝る事ができなかったり、心にもない言葉や行動をしてしまったりと、相手を傷つける場面も見られる。また、相手を傷つける場面に対し、自分の言動でそのようになってしまった事に気づいていない時もある。上級生や担任との活動の時は、リードしてもらいその場を解決することができるが、自分たちで解決することは難しい。

　これらは、児童が自分の非を認めたくない、謝るのが恥ずかしい、謝るタイミングを逃してしまい言いづらい、相手が許してくれないかもしれない等の思いが影響していると考えられる。事前に行ったソーシャルスキルアンケートからも、失敗場面での対応に課題があることが分かる。これより、児童にトラブルを解決していくスキルが必要になってくると思われる。

　そこで、5月から行っている、社会性の基礎を育むためのスキルを取り入れ、失敗した時に謝ることの意義や方法を身につけさせたい。また、謝ることを奨励し、習慣化につながることを期待している。

アンケート　　　　　　　　　　　　　　　hyper-QUｿｰｼｬﾙｽｷﾙ結果　（4/28実施）

|  |  |
| --- | --- |
| 失敗場面での対応失敗をした時、すぐにあやまっていますか | 考察・だいたいしている児童の中には、心から謝るというよりも、先生や周りの友だちに言われてしたという児童もいる。・あまりしていないという児童から、謝る事が恥ずかしい、謝っても許してくれないと思おうという理由があげられた。・謝る事でお互いに良い関係が築かれるという指導が必要になってくる。 |
| いつもしている | 0人 |
| だいたいしている | 2人 |
| あまりしていない | 3人 |
| まったくしていない | 0人 |

（２）題材設定の理由

　新学期から2ヶ月経ち、友だちとの関係も慣れ始めた児童の間では、些細なことが原因でトラブルが見られる時期である。トラブルの解決法は相手に迷惑をかけたら「謝る」事である。しかし、それがしっかり身についていないため、間違った行動に対して、「謝る」スキルを児童に身につけさせる必要がある。

そこで、日常で起こり得る場面を取り上げ、「謝る」という行動をした時としない時では、相手がどのような感情を持つのか考えさせることで、「謝る」事が必要であることを理解させていきたい。さらに、「謝る」方法や練習を学級全体で行うことで、「謝る」ことが当たり前の事であり、恥ずかしいものではないという事を感じ、日常の中でも素直に実践できることを期待する。また、イラストカードを活用し、自分の言動が相手を傷つけていることに気づかせる事で、これまでの自分を振り返り、行動を改めていくと考える。

　以上のことから、児童が失敗場面において、素直に「謝る」スキルを身につけることは、自分の行動を改める態度を育てるとともに、間違った行動を許し合える良好な友だち関係につながると考え、本題材を設定した。

**３　第1学年及び2学年の評価規準**学級活動（２）ウ望ましい人間関係の形成

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 集団活動や生活への関心・意欲・態度 | 集団の一員としての思考・判断・実践 | 集団活動や生活への知識・理解 |
| 評価規準 | ○学校・学級集団の中で、様々な人と仲よくできる人間関係を築こうとしている。 | ○友だちの良さを認め、よりよい人間関係を築くためにはどうしたらよいのかを考え、行動している。 | ○仲良く温かい学級集団にするための方法を理解している。 |

**４　指導のねらい**

　○どのような場面で「謝る」ことが必要になるのか捉えさせる。

　○「謝る」方法を示し、練習を繰り返すことで実践につなげさせる。

　○相手が傷つく場面はどのような時か知らせ、自己を振り返り改めようとする態度を育てる。

**５　本時で目指す児童の姿と評価規準**

|  |  |
| --- | --- |
| 目指す児童の姿 | 事後指導で目指す評価 |
| 　日常で起こり得る言動から相手を傷つけていることを知り、どのような謝り方が良いのか考え、行動を改めようとしている。【関心・意欲・態度】 | 日常で起こり得る言動から相を傷つけていることを知り、どのような謝り方が良いのか考え、実践している【思考・判断・実践】 |

**６　本時の展開**

1. 本時のねらい

　　○どんな時にどのように謝るのかを知り、これからの生活で実践しようとする態度を育てる。

（２）本時の展開　　　　スキルの領域【配慮】スキルの種類【失敗場面の対応】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 児童の活動 | 指導上の留意点 | 資料 | 目指す児童像 |
|  つかむ | 導入10分 | 1.学習内容を知る。【つかむ】2.物語を聴き、謝ることの大切さを知る。 | ・学習の流れを分かりやすく説明し、身につけて欲しい内容を伝える。・児童が興味を持ちやすいようカードを活用する。 | ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教材人物ｶｰﾄﾞ | 日常で起こり得る言動から相手を傷つけていることを知り、どのような謝り方が良いのか考え、行動を改めようとしている。【関心・意欲・態度】 |
| さぐる・見付ける | 展開25分 | 【きづく】3．物語に登場する動物の謝り方を予想しながら、どのような謝り方が良いのか考える。 【やってみる】4.良い謝り方の練習をする。【きづく】5.知らないうちに友だちを傷つける場面を理解する。 | ･児童の予想した謝り方をした時、相手はどんな態度になるのか演じ、相手の気持ちを理解させる。・良い謝り方を確認させてから練習に入る。・1対1が苦手な児童のために練習は教師対全員で行う。 | 人物ｶｰﾄﾞ行動ｶｰﾄﾞｲﾙｶｼｰﾙ |
| まとめる | 終末10分 | 6．振り返りカードで学習の　 まとめをし、今後の目標　を立てる。7.頑張った児童の態度を知らせ、今後の改善していく生活について話を聴く。 | ・自己評価で学習のまとめ　をさせる。・学級掲示カードで意欲を 高めさせる。 | ﾜｰｸｼｰﾄ |

**７事後指導**

1. 朝の会や帰りの会で実践している児童、しようとしている児童の頑張り　　　　　　を全員で認める。
2. できてイルカカードを活用し、意識とスキルの継続を促す。

**８　資料**

○楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動小学校編　国立政策研究所

○クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法　岩澤一美（2014）

○小1プロブレム・予防＆改善プログラム　橋本創一（2011）

○よりよい人間関係を築く特別活動　杉田洋（2009）

○社会性を育てるスキル教育小学1年生　國分康孝（2007）

○ソーシャルスキル教育で子どもが変わる　國分康孝（1999）